

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

今年度の課題は、再びかなり変則的な出題に戻ってしまった。今回は資料さえなく、条件だけ与えて、自分で問題そのものを発見し、解決させるというものだ。出題形式が大きく変わったので、ほとんどの受験生がとまどったと思うが、純粹に問題発見・解決能力を試すという点では、きわめてSFCらしい問題とも言える。

問1は数学の問題だが、数学が普通にできる人にとっては何の問題もないはず。ぱっと見てわからなければ、さっさと次の設問に行くほうがよい。ここで粘るのは時間の無駄だ（ただし、問1-1が解けないのはさすがにまずいので、気をつけよう）。

問2と問3は連動しているので、合わせて考える必要がある。

問2は、「この世の中で不条理だと感じていること」を15個挙げて、理由も説明する問題。まず、問3で答える3つとして、解決のための現実的なアイデアを自分できちんと説明できるものを考えた上で、残りの12個を、(a)~(c)の課題ジャンルに合わせて埋めていくつもりで考えるとよい。(b)や(c)は、ニュースをよく見ていればそれほど苦労しないはずだが、(a)の「人間の慣習に関すること」は、ふだんから身近な様々なことに疑問を持つタイプでなければ、意外に難しく感じるかもしれない。

問3は、問2の答えから3つを選んで、「その解決の方向性と方法」について説明する問題。「できるだけ具体的、定量的、かつヴィジュアルに」説明することが求められているが、もともとビジュアル化する能力の高い人は別として、まずは2部構成のA型に従って、「何が問題か」(第1部)、「その解決の方向性と方法」(第2部)を簡潔にまとめた上で(箇条書きでもよい)、それを簡単な図やフローチャートなどで補う書き方をするほうが効率的だろう。

解決の「方向性」と「方法」の違いは、注で例示されているが、ある事柄を不条理だと感じた時点で解決の「方向性」もある程度見えているはずなので、その「方法」をどれだけ具体的・現実的に示すことができるかがポイントになる。逆に言えば、そこで具体的なアイデアの提示ができないような答えを選んではいけない。

ふだんから社会の問題に関心を持って、本などもよく読んでいる人にとっては、テーマを読み取ったり長い文章を考える必要もなく、かえって答えやすい問題だったかもしれない。いずれにしても、変則

的な出題形式に惑わされず、落ち着いて取り組むことが大切だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>